

## 1. 体制転換の哲学

国民経済計画の不可能性

体制転換(移行):何から何へ

配分と交換

社会の自己崩壊

社会主義は自立した社会構成体か

アポトーシス型社会とネクローシス型社会

社会転換のアポリア

「移行」と「転換」

社会転換のイデオロギー

ポスト社会主義のイデオロギー

## 2. ポスト社会主義の経済システム：国家資本主義と国庫資本主義

「漸次的」改革か、「急進的」改革か

体制転換のアポリア

資本の原始的蓄積

直接投資による再民営化

体制転換のエポック

国庫資本主義:生産と分配の非対称性

経済システムは収斂するか

## 3. 借り物経済とゲストワーカー現象

借り物経済

資金調達と直接投資

産業分野による差異

ゲストワーカー現象:

多国籍企業との共生現象

「甘え」の構造－体制転換貴族

借り物経済のマクロ分析

## 4. 経済危機下の中欧経済：ハンガリー危機を分析する

危機の勃発

危機の構造  
危機の原因  
危機のコスト  
危機の効用  
危機の将来

## 5. ポスト社会主義の政治システム：オポチュニズムとポピュリズム

戦時のイデオロギーと平時のオポチュニズム

「左翼」－「右翼」分類の陳腐化

政治倫理の欠如

ポピュリズム

民族主義

遅れてやってきた政治の転換

## 6. 歴史評価と統治の正統性

ホルン元首相叙勲騒動

ホルンの経歴と役割

平和的移行と統治の正統性

歴史的偶然と個人の役割

ナジ・イムレ処刑の評価

正統性の形式と実体

## 7. 独裁権力下の個人と倫理

政治的転換の二つの型

「タブー」をめぐる抗争

治安警察との関わり

映画:Taking Side(対峙)

治安警察と粛清事件

ノエル・H・フィールド事件からライク粛清へ

狂気と化すスターリン主義

56年動乱への道

「父と子」

## 8. ポスト社会主義の社会分析：役人主権の変化と継続

「コメコン商品」：安かろう悪かろう

医師主権

役人主権

「コメコン事務所」

情報伝達の欠如と顧客軽視

公営企業の仕事振り

規律を欠く国会、けじめのないエリートたち

## 9. ポスト社会主義のイデオロギー：ネオ・リベラリズム

旧体制を引き摺る医療制度

「1ユーロ」をめぐる国民投票

複数保険制度－医療保険民営化構想

「コーヒーと紅茶」：政府案への批判

映画:Sicko

複数保険イデオロギー

## 10. コルナイ経済学をどう理解するか

経済学は科学か、それともレトリックか

コルナイの理論的軌跡

レトリックとアナロジー

理論と政策

コルナイ経済学の特質：

理論か、それともイデオロギーか

結びに代えて